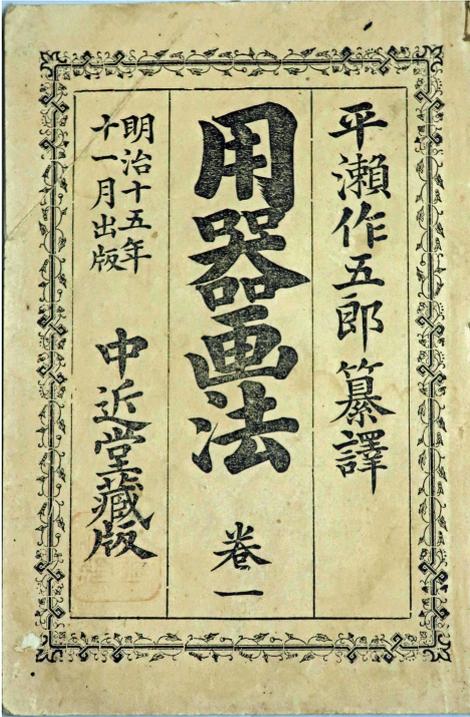


まなびや

明治・大正・昭和のロングラン教科書



福井出身の植物学者、教育者、画家

図画・図学教科書「平瀬作五郎」著

平瀬作五郎（一八五六一—九二五）は、福井藩中学校を卒業後、図画教師として母校、そして岐阜県で勤務します。一八八二（明治15）年の著書



平瀬作五郎(1856-1925)

「用器画法」は、西欧の幾何画法を導入した画期的な教科書として、一九四〇（昭和15）年代まで60年以上にわたって教科書として、全国の学校で使用され続けました。

「用器画法」は大変評価が高く、洋画の基本的な技法や、

【参考】まなびや第41号参照
日本近代植物学の大偉業・イチョウ精子発見で世界が驚愕

第1章 / 第5節 平面図形のかきかた

1 基礎的な図のかきかた

平面図形は、すべての図面の基礎となるもので、定規とコンパスを用いて正確にかかなければならない。図5-1、5-2に、そのうちのおもなものを示す。

平面図形のかきかたを学ぶために、作図線は細い実線で示すが、図面では作図線を示さない。

(1) 直線 AB を 5 等分する

① 任意に直線 AC を引く。 ② AC 上に任意の長さで、ティライダを用いて、AI = 12 = 24 = 36 = 48 とする。 ③ SB を引き、それに平行に、44', 33', 22', 11' を引けば、11', 2', 3', 4' は AB を 5 等分する。

(2) 角 AOB を 2 等分する

① O を中心に、任意の半径で円弧 CD をかく。 ② C, D を中心に、任意の半径でそれぞれ円弧 c'd' をかく。交点 E を求める。 ③ O と E を結べば、OE は角 AOB の二等分線となる。

図5-1 基礎的な図のかきかた(1)

製図（高等学校工業科用・検定済教科書 現在）

現在の高校「工業・製図」

定規・コンパスなどの器具を用いて、正確に作図や設計ができる技術を学ぶためのものでした。

の教科書にも、線分や角の等分、垂線の書き方など基本的な図形の書き方が同様に記載されています。基礎的な図の書き方は、今も全く同じです。

用器画法圖式巻一（中學校・師範學校教科用書 明治15年）

「イチョウの謎を解いた男」

平瀬作五郎の挑戦

令和2年10月3日(土)～12月6日(日)

開催時間：午前9:00～午後5:00（入館は午後4:30まで）
休館日：月曜日（祝日の場合はその翌日）、祝日の翌日

教育博物館
EchinoscienceMuseum

昨年開催の「平瀬作五郎展」では、平瀬の研究とその偉業を紹介しました。今回の企画展では、改めて平瀬の研究にスポットライトを当てるとともに、平瀬の教師として、また研究者としての人生の中で大きく関わった人物を取り上げ、平瀬と人とのつながりに注目していきます。

10月3日(土) / 12月6日(日)

秋の企画展

「イチョウの謎を解いた男」

平瀬作五郎の挑戦